

プロロジス、物流スタートアップ企業のウィルポートと提携し、 ラストワンマイルの物流を支援

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区、社長:山田御酒)と、物流スタートアップのウィルポート株式会社(本社:東京都中央区、社長:藤原康則)は、ラストワンマイルの物流事業について業務提携したことを発表しました。

■業務提携の背景・目的

昨今、急増する宅配需要やトラックドライバーの長時間労働の見直しにより、消費者生活圏における物流の担い手が不足しています。プロロジスの物流施設を利用するカスタマーにとっても、ラストワンマイルの配送は喫緊の課題です。プロロジスでは、世界主要消費地に近接した地域に物流施設を開発・提供することで、カスタマーの物流需要にえています。中でも都市部の物流施設は、消費者や小売店舗に届く前の最終点であることから”Last Touch®”と呼称し、近年開発に注力しています。

一方、ラストワンマイルの物流や小売店舗からの地域内配送を担うウィルポートは、配送需要と地域のラストワンマイルドライバーをつなぐことで、ドライバーリソースの効率化に取り組んでいます。同社は、独自に開発したクラウドシステムで、ラストワンマイルドライバーの空き状況に加えて、技能、研修履歴、車両整備状況などを一元管理。配車やドライバーマネジメントなど、荷主の課題であるラストワンマイルを請け負うほか、3時間以内のスピード配送にも対応しています。また、登録しているラストワンマイルドライバーにとっては、空き時間を活用して荷物を受託し、短距離・短時間で効率的に売上をあげることが可能となります。

プロロジスは、ウィルポートとの協業を通じて物流人材不足の社会的課題に取り組むとともに、プロロジスの物流施設を利用するカスタマーへのサービス向上をめざします。



■今後の主な取り組み

プロロジスとウィルポートは、相互のノウハウやリソースを活用し協業することで、東京 23 区内におけるラストワンマイル物流の課題に取り組みます。

現在ウィルポートは、23 区および近郊に数百坪程度の配送デポを 3 拠点整備し、物流事業を受託しています。今後、プロロジスが拠点展開をサポートし、6 月中をめどに東京 23 区内に 6 拠点のデポを新設する予定です。将来的には、23 区内に、25 坪程度の配送ステーションを複数箇所整備し、23 区内のラストワンマイル物流をくまなくカバーすることを目標としています。

また、プロロジスのカスタマーには、ウィルポートが優先的に配送を請け負うことで、ラストワンマイルの配送依頼先の確保につなげます。

プロロジスは、今回の取り組みにより得られた基礎データを、今後、都心部での物流施設の立地選定・開発に活用していきます。

ウィルポートについて (www.willport.co.jp)

ウィルポート株式会社(本社:東京都中央区勝どき、代表取締役社長:藤原 康則)は、独自のビジネスモデルと IT システムで地域密着型の物流プラットフォームを構築する物流ソリューションプロバイダーです。小商圏内の小売店舗から 3 時間以内に宅配を行う生活支援物流事業(2019 年 4 月現在、70 エリアで 300 店舗と加盟契約を行い約 20 万人の会員が利用しています。)、小商圏内での物流波動を改善するための受託物流事業、独自開発の IOT 宅配ボックスで再配達問題に挑む宅配ボックス事業の 3 つの事業領域で、社会に必要とされる物流サービスを創出しています。

プロロジスについて (www.prologis.co.jp)

プロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役社長:山田 御酒、世界本社:米カリフォルニア州サンフランシスコ、NYSE:PLD)は、物流不動産のリーディング・グローバル企業として世界 19 カ国で事業を展開しています。2019 年 3 月末時点で、計約 7,200 万㎡の物流施設を所有・運営・開発し、3PL、物流、小売、e コマースなど、約 5,100 社のカスタマーに最新鋭の物流施設をご利用いただいています。

日本国内ではこれまでに 93 棟、総延床面積約 623 万㎡の物流施設を新規開発し(開発中を含む)、現在 53 棟、総延床面積として約 409 万㎡の物流施設を運営および開発中です。また、約 83 万㎡の物流施設の開発用地を所有しています。今後もお客様へのよりよいサービスと、環境に配慮したサステナブルな、物流の効率化に貢献するための最新の物流施設を世界各地で展開してまいります。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先

ウィルポート 経営企画室
E-mail: info@willport.co.jp